

VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会 令和 6 年度総会議事録

1. 日時：令和 7 年 1 月 10 日（金） 11:00～12:00
2. 会場：つくば国際会議場（日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム S 会場）
3. 参加人数：出席者 64 名（委任状 28 通を含む）で総会は成立（会員数 369）
4. 議事・報告
 - ① 解良聡会長（分子科学研究所）より、年頭の挨拶がなされた。昨年度、VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会のミッションが VUV・SX 波長領域におけるサイエンス全体を議論する場として再定義されたことをうけ、放射光に限らず先端光源に関する活発な議論をお願いしたい旨が述べられた。
 - ② 木村真一教授（大阪大学）が議長に選出された。
 - ③ 会員数 417 人（令和 5 年 12 月）から 369 人（令和 6 年 12 月）となり、賛助会員は引き続き 5 社となった。
 - ④ 北村未歩編集委員長（量子科学技術研究開発機構）より、ニュースレターについて報告があった。令和 6 年 11 月に開催された VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会シンポジウム「物性研究のための VUV・SX レーザー光源と加速器光源の協奏利用」について報告する第 8 号が 2025 年 1 月に発行された。来年度以降、「横断的サイエンス」、「先端設備利用事例」、「国際動向」の 3 つを軸とした記事を随時ウェブ掲載し、年 1 回まとめてニュースレターとして発行する方針が決定された。これまでは編集委員は 1 名で行っていたが、令和 7 年度から阪田薫穂編集委員（高エネルギー加速器研究機構 物質構造化学研究所）が加わる。
 - ⑤ 奥田太一会計委員長（広島大学）より、令和 5 年度の会計報告があり、承認された。また、奥田太一会計委員長より、令和 6 年度の会計中間報告があった。
 - i) 木村真一議長より、通信費に関する質問があり、奥田太一会計委員長より、投票システム使用料に 2 年に 1 度 10 万程度かかっている旨が説明された。

ii) 木村真一議長より、旅費に関する質問があり、今後の継続的な運営のために収入に見合った形でご検討いただきたい旨が述べられた。

⑥ 解良聡会長より会則および細則の変更案（顧問を廃止しオブザーバーの記述を追加など）が提示され、審議が行われ、賛成多数により変更案が可決された。

（現在）第 13 条（顧問）

本会に顧問を置く。顧問は、放射光および関連する光科学の分野において顕著な功績を有す者で、幹事会によって推薦され総会で承認された者とする。

第 14 条（会長）-略-

第 15 条（顧問）

顧問は、本会運営の基本方針について会長に意見を述べることができる。

（変更案）第 13 条（会長）-同略-

会則 第 14 条（オブザーバー）

会長は、本会運営を円滑に進めるために必要と判断した場合、オブザーバーを数名委嘱することができる。オブザーバーは幹事会への陪席が認められ、意見を述べることができる。

*細則の修正

各委員会名称の変更（〇〇幹事委員会→〇〇幹事委員会）

計画委員会の目的変更（計画委員会は、~~建設作業、~~共同利用計画ならびに将来計画研究会の企画等に関する活動を行う。）

⑦ 木村真一庶務委員長より、令和 6 年度活動報告がなされた。幹事会、VSX シンポジウム開催、VSX 連携ミーティング開催、ニュースレター発行、総会の開催が報告された。

⑧ 堀場弘司計画委員長（量子科学技術研究開発機構）より、2024 年 11 月 28 日に東北大学青葉山新キャンパス内で開催された VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会シンポジウム「物性研究のための VUV・SX レーザー光源と加速器光源の協奏利用」の報告が行われた。放射光とレーザー光源のコミュニティがお互いにお互いを紹介しあう場として研究会を企画し、午前にレ

レーザー光源施設紹介、午後にレーザーと加速器光源の協創・パネルディスカッションという構成で行われた。

i) 木村真一議長より、当日の様子と今後の展開について質問があった。

⑨ 原田慈久オブザーバー（東京大学）より、2024年3月12日に静岡県熱海市で開催された第二回 VSX 連携ミーティングの報告が行われた。議論した内容の具体例として、マルチモードをキーワードにした科学の近未来、階層横断的視点（エネルギー・時間）の重要性、複数光源によるシナジー効果、学術放射光の課題・役割、ユーザーサポートと自動化、自己分析の重要性、などが挙げられた。

i) 木村真一議長より、会議の公開性に関して質問があり、原田慈久オブザーバーより、現状はクローズドだが、重要性を踏まえ今後広くオープンにしていく可能性がある旨が説明された。

⑩ その他、総合討論でレーザー光源コミュニティとの機会を増やす工夫について議論がなされた。

i) 解良聡会長より、会員数・賛助会員の増加の必要性、日本放射光学会年会にて企画シンポジウムの開催などの多様な交流の場の設定、レーザー関係者の幹事会への招聘という意見が述べられた。

ii) 原田慈久オブザーバーより、異なる分野間の基礎的な知識共有の重要性が述べられ、シンポジウム内での勉強会・基礎講座なども検討していただきたい、という意見が述べられた。

iii) 雨宮慶幸氏（高輝度光科学研究センター理事長）より、SACLA との連携に関する課題が提起され、解良聡会長より、SACLA も含め光源の種類にかかわらず良い連携を模索していきたい旨が述べられた。木下豊彦氏（高輝度光科学研究センター）より、レーザーコミュニティの方の SACLA の利用状況に関する追加質問があり、原田慈久オブザーバーより、VSX 連携ミーティングを通じた新たなユーザー開拓の可能性について述べられた。

iv) 木下豊彦氏より、賛助企業の方たちへのインセンティブを提供する場を考えていただきたい、という意見が述べられた。

v) 雨宮慶幸氏より、今後の VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会に関する期待とともに、他組織とのコラボレーションの重要性、運営の難しさ・負担軽減に関して意見が述べられた。解良聡会長より、期待に答えるべく努力する姿勢が示された。

以上